

《担当者名》 歯学部教授 / 照光 真 歯学部講師 / 吉本 裕代

【概要】

歯科麻酔学のまとめとして、講義および実習から得られた知識と技術の再確認を行う。

【全体目的】

歯科麻酔診療において安全かつ円滑な診療介助を実践するために必要な知識、態度、技能を習得する。

【学修目標】

局所麻酔法、全身麻酔法、精神鎮静法、およびペインクリニック診療の概要を理解し、患者に説明できる。局所・全身性偶発症発症時に適切な診療補助ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイタルサイン</li> <li>局所麻酔法</li> <li>局所麻酔下の処置・手術に係わる全身管理法</li> <li>精神鎮静法</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>バイタルサインについて説明できる。</li> <li>局所麻酔薬の分類と種類、血管収縮薬の作用について説明できる。</li> <li>注射器や注射針の種類と取扱い・注意事項を説明できる。</li> <li>各種の局所麻酔方法について説明できる。</li> <li>局所麻酔法に伴う局所および全身的合併症について説明できる。</li> <li>精神鎮静法の目的、適応症、種類、使用機材について説明できる。</li> <li>笑気吸入鎮静法に必要な器材の取扱い・注意事項を説明できる。</li> <li>有病障害者への局所麻酔下の処置・手術に関わる全身管理法を説明できる。</li> </ol>	照光 真
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>全身麻酔法</li> <li>全身的偶発症・救急蘇生法</li> <li>生体情報モニタ</li> <li>救急薬剤</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>全身麻酔の適応、全身評価、術前準備について説明できる。</li> <li>全身麻酔の導入、気道確保について説明できる。</li> <li>術後管理の要点について説明できる。</li> <li>歯科治療中の全身的偶発症への対応について説明できる。</li> <li>生体情報モニターの取扱いと計測値の評価判定について説明できる。</li> <li>ガイドラインに則ったBLS(一次救命処置)について説明できる。また、ACLS(二次救命処置)の概要について説明できる。</li> <li>救急薬剤について説明できる。</li> </ol>	照光 真
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来全身麻酔</li> <li>ペインクリニック</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>外来全身麻酔の適応と禁忌、術後電話訪問について説明できる。</li> <li>口腔顔面領域の疼痛・麻痺性疾患に対するペインクリニック診療について説明できる。</li> </ol>	吉本 裕代

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

卒業試験100%

【教科書】

歯科衛生士のための麻酔学(歯科麻酔学講座編)

最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」第1版第9刷(2017年)全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

**【参考書】**

「歯科麻酔学」第8版（2023年）医歯薬出版

**【学修の準備】**

前年度までの教科書および講義資料、プリントを整理し内容について確認しておく。（20分）

授業ごとに実施した内容を元に復習をする。（40分）

**【実務経験】**

照光 真（歯科医師）、吉本 裕代（歯科医師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

歯科麻酔学は、歯科医療の安心安全を支える学問と臨床体系である。多くの基礎や臨床分野の知識を統合して、問題解決にあたる必要がある。実務経験による理論と実践に基づいた、高い教育効果をもつ歯科麻酔学を学習するための内容となっている。